

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市泉ふれあいの家
2	指定管理者	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日（5年間）
4	施設の利用状況	《延利用者数》 ・平成29年度 6,285人（前年度比 101.6%） ・平成28年度 6,184人（前年度比 94.7%） ・平成27年度 6,530人（前年度比 103.0%）
		《事業》 主として知的障害者が通所し、日常生活又は社会生活に必要な訓練等を行い、福祉の増進を図る。
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 48,288千円（49,171千円） ・その他市が負担した費用 1,338千円※（269千円） ※他施設と併せて備品購入した費用（283千円）も計上している 《収入》 ・使用料収入 48,141千円（47,983千円） ・その他収入 0千円（0千円）
		（ ）は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 平成30年1月、指定管理者の協力のもと障害者支援課でアンケートを実施し、25人/29人中（86.2%）の回答を得た。施設の利用に関し、満足又は大変満足が66.1%であり、不満は2.5%であった。なお、不満との回答のいずれについても、施設の設備に対するものであった。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	条例で定める設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解し、利用者支援に従事している。 また、利用者の障害特性を十分に把握したうえで配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。	S
II	施設の運営管理体制	法に定められた職員数が配置されており、職員間では円滑な連携が図られ、適切に運営されている。経理書類も適正に作成されている。 また、個人情報の取扱いについては、管理責任者を定めるとともに、職員研修を行い、意識啓発を行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 事故や災害の発生に備えた体制も整えられ、事故防止策の研修も実施している。	S
III	施設・設備の維持管理	老朽化が進んでいる施設ではあるが、利用者の安全を確保し、安心して利用してもらえるよう、施設の保守点検や清掃を丁寧に行い、清潔に保たれている。 また、積極的に節電・節水を行うなど、省エネ対策が実行されており、環境に配慮した施設運営を行っている。	S
IV	サービスの質の向上	職員の資質向上や意識高揚のため、研修会への参加に積極的に取り組んでいる。 また、指定管理者と利用者保護者との懇談会を定期的開催し（6回実施）、施設の現況説明や情報交換を行い、施設運営上の課題を把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営につとめている。 また、昨年度からの改善として、利用者への支援時にも支障がないよう、名札の代わりにシールを活用し、職員の氏名が分かるような工夫を行っている。	S
V	施設固有の基準	指定管理施設としての基準を遵守しながら、利用者の障害特性を適切に把握し、処遇の向上に努めている。 また、生産活動の機会の提供にあたっては、より細やかな支援体制を取ることで一人一人の作業力の向上を図るとともに、工夫を重ねながら収益を向上させるよう配慮している。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（仙台市社会福祉協議会）による自己評価》
<p>利用者の個性や支援の必要度・特性を踏まえた個別支援計画に基づいて適切なサービスの提供に努めると共に、各種行事への参加や社会体験活動を通して利用者に社会参加の機会を幅広く提供した。本年度は新たに利用者担当制を導入し、保護者と職員が関わる機会を増やし、利用者個々のニーズの把握に努めた。また、サービスの質の向上を図るため、法人内の専門性の高い職員による業務改善委員会を実施し、委員会からの助言を基に業務改善に取り組んだ。さらに、利用者主体の運営を行う事を目的として、アンケートを実施し行事や日中活動の内容に反映させるとともに、福祉工場(就労継続支援B型)では利用者運営委員会を開催し、主に行事の内容について職員と利用者による検討を行い、次年度の行事計画に反映させた。</p> <p>重点目標のまとめ</p> <p>1 障害福祉サービス事業所としての事業の拡充 利用者及び家族の意向を基に個別支援計画を作成し、それに基づき利用者の状態に合わせて日中活動や社会体験等を行った。また、利用者担当制を導入したことにより、これまで以上に利用者や保護者との信頼関係の深化を図り、支援内容の充実につなげた。</p> <p>2 工賃増額に向けた事業展開 工賃の増額への取り組みとして、仙台市が主催するふれあい製品フェア、近隣施設の行事等に積極的に参加し、ビーズ製品や野菜等の自主製品の販売を行った。本年度は新たにスーパーマーケットと委託販売契約を結ぶなど、販路の拡大に努めた。また、安定的な収入を得るため、東日本大震災以後、生産を中止していた椎茸栽培の再開に向け、設備を整備するなど、生産の準備に着手した。</p> <p>3 ボランティア・実習生の受入れ強化 クリスマス会、感謝の会等の行事の運営補助としてボランティアを受け入れた。他にも社会福祉士等各種資格取得の実習生や中学生の職場体験の場として計3校(前年度より1校増)の近隣中学校の生徒を受け入れた。</p> <p>4 地域、関係団体との積極的関わり (1) 地域との連携 野村小学校児童との相互交流や町内会行事への協力を通し、地域との連携・交流及び障害者の理解促進に努めた。 (2) 福祉教育としての場所の提供 積極的に地域の中学生の職場体験や見学者を受け入れることで、地域における福祉教育の場としての役割を果たした。 (3) 利用者の生活課題解決への取り組み 在宅生活の課題解決に向け障害者相談支援事業所(ふらっと泉)をはじめ行政、福祉サービス事業所等の関係機関と連携した支援を行った。</p> <p>5 利用者及び家族支援の取り組み 利用者の保護者の高齢化に伴う様々な課題や不安に対して、住まいの場を提供する事業所や障害者相談支援事業所等の関係機関と連携し、利用者支援に取り組んだ。 (1) 定期的に行われる障害者相談支援事業所のモニタリングの他にもサービス担当者会議へ参加し支援者間で情報の共有や支援の方向性について協議した。 (2) 当施設の保護者会と合同でグループホームに関する研修会を行った。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>利用者や家族の意向をもとに支援計画を作成し、利用者の状態に合わせたサービス提供が行われている。利用者個人の適性に応じた訓練を行うことによって、意欲的に生活できるよう支援を実施し、製品の販売については、新たにスーパーマーケットと委託販売契約を締結するなど、販売先の新規開拓に努めるほか、地域のイベント等での積極的な販売を進めることで、社会参加を促している。</p> <p>また、ボランティア等の積極的な受け入れや、地域の町内会行事への参加、地元の小学生との交流等により、福祉施設や障害のある方への理解を深めることに努めているなど総合的に高く評価できる。</p>	S